

## 研究活動報告

### 第12回 ASEAN・日本社会保障ハイレベル会合

厚生労働省では2003年から、ASEAN10ヵ国の社会保障、保健医療、雇用の3分野の担当省庁のハイレベル行政官を日本に招聘し、年ごとに異なったテーマで会合を開催している。第12回目となる今年は、「高齢化する社会に対応するしなやかなコミュニティを育む」をテーマに、10月21日（火）から10月23日（木）の期間、東京都港区の品川プリンスホテル内でのセミナー、関東圏の病院・老人福祉施設訪問、地域レベルの高齢者保健・福祉・介護・まちづくりの視察が行われた。

セミナーは①コミュニティの能力を活用した高齢者の健康・生活支援、②高齢者の介護サービスと人材育成、③高齢者にやさしい街づくり、④高齢者の社会参加及び社会貢献、⑤高齢化に関するASEANの協力と連携という5つのセッションに分かれていたが、筆者は④のモデレーターを担当した。ASEAN各国の行政官は、寿命が長い日本で、高齢者がどのように活躍しているのか、特にシルバー人材センターやJICAのシニアボランティアなどが、どのようなしくみで機能しているのか、といった具体的な質問が挙がった。

会場では、先進技術を用いた高齢者用の用具や食材などの紹介が行われ、試食コーナーも設けられた。ブルネイなど高所得の国ではニーズも高いが、イスラームに則ったハラール認定があることが重要、との指摘を日本側が受け取るような場面もあった。ASEANにおける人口高齢化は本格化しており、今後も継続した情報交流が有用であると思われた。（林 玲子 記）

### 日本社会学会第87回大会

日本社会学会第87回大会は、2014年11月22日（土）～23日（日）に神戸大学（文理農学部キャンパス）にて開催された。45の一般部会（うち英語セッションが3）、6のテーマセッション（うち1つは研究活動委員会企画テーマセッション）、日韓ジョイントパネル、若手フォーラム、14のポスターセッションにおいて多数の研究報告が行われた。シンポジウムは第2日目の午後に行われ、扱われたテーマは「〈当事者宣言〉の社会学：カムアウトからカテゴリー構築まで」「変容する企業中心社会の男性学的解剖」「古典と現代：社会学におけるデュルケーム学派の今日的意義（開催校シンポジウム）」の3つであった。

今回は、日本社会学会が同年7月に招致した第18回世界社会学会議・横浜大会開催後の定例年次大会であったため、第1日目の総会后、国際社会学会（ISA）会長 Margaret Abraham 氏（Hofstra University）による会長講演も行われた。

本研究所からは、一般部会の「家族(1)」において岩澤美帆・守泉理恵が「強まる女兒選好とその背景：第3子への挑戦から見る日本の役割」を報告した。例年、幅広いテーマで数多くの部会が成立し、研究報告が行われる本学会であるが、今回大会では、人口分野に関連する一般報告として、妊娠と出生前検査の経験についてのアンケート調査結果に関する一連の報告、韓国の結婚・子育て、高等教育と女性の結婚タイミング、JGSS-2009/2013ライフコース・パネル調査の分析結果に関する一連の報告、高度人材の国際移動、中高年層の社会保障に対する意識や高齢者女性の就労、子育て支援のジェンダー論的検討などがあった。また、テーマセッションの一つには「移動する子ども・若者」

をめぐる国際社会学：子ども・若者の移動経験に注目して」があり、日韓ジョイントパネルでも「人の国際移動と移民政策を考える：日韓の事例・両国への示唆」がテーマとなるなど、人口移動への関心も高かった。（守泉理恵 記）

## 台湾における低出産・高齢化と政策的対応に関する資料収集

厚生労働科学研究費による研究事業「東アジア低出生力国における人口高齢化の展望と対策に関する国際比較研究」の一環として、筆者が11月23日～27日にかけて台湾に出張し、専門家との面談と資料収集を行った。面談した専門家は、李美玲教授（亞洲大学）、薛承泰教授・陳玉華教授（国立台湾大学）、楊文山博士・于若蓉博士・董安琪博士ら（中央研究院）である。特に中央研究院では、筆者が“Low Fertility and Confucian Family Pattern in Eastern Asia”と題してプロジェクトのこれまでの成果を報告し、有意義な議論を行うことができた。また薛承泰教授からは、帰国後に貴重な研究成果を送っていただいた。その他、日本においては検索・購入が難しい資料を入手できた。

（鈴木 透 記）

## 国際開発学会

2014年11月29日（土）、30日（日）に、千葉大学（西千葉キャンパス）にて、国際開発学会第25回全国大会が開催された。国際開発学会は、途上国の開発問題に関する、経済、資源、教育、保健医療、貿易産業、インフラ、開発手法、といった、さまざまな分野の研究者が会員となっており、対象とする地域も、アジア、アフリカ、ラテンアメリカやオセアニア島しょ地域、ロシアを含むヨーロッパなど多様である。筆者は、「人の移動と開発—国際人口移動と国内人口移動の国際比較」というタイトルで報告を行ったが、「人材と教育」のセッションに位置付けられており、教育分野の専門家である座長やコメンテーター、セッション参加者と、普段接することの少ない分野の視点を通じた、興味深い議論が交わされた。そもそも人口学は、人材開発に資するべき学問であるから、今後も、このような場を通じて関連分野との連携を行うことが重要であると感じさせられた。（林 玲子 記）

## 国連ジェンダー統計・EDGEプロジェクト中期評価技術会合

国連統計部、UN Women の主催で、2014年12月3日（火）～5日（金）、福岡県北九州市の北九州市立男女共同参画センターにて、「EDGEプロジェクト中期評価技術会合」が行われ、参加した。ジェンダー統計は、国連統計委員会の勧告に基づいて、国連統計部・UN Women が整備を行っているが、ジェンダー統計を、国際的に承認された定義がありデータが揃っているもの（第1群）、国際的に承認された定義があるがデータが十分に揃っていないもの（第2群）および定義がまだ国際的に承認されておらず、データも揃っていないもの（第3群）に分類し、それぞれ異なったアプローチがとられている。EDGEプロジェクトはこの第3群に当たる統計整備を目的とするもので、具体的には女性の起業に関する統計、女性の資産所有に関する統計が今回の会合の対象項目であった。

会議に参加したのは、EDGEプロジェクトのパイロット国である、フィジー、グルジア、ガーナ、モルジブ、メキシコ、モンゴル、フィリピン、南アフリカ、スワジランド、ウガンダと、中国、韓国、